



KYOTO EXPERIMENT Office
6F 7th Hase Bldg.
229-2 Shoshoi-cho, Nakagyo-ku, Kyoto
604-0862 JAPAN
Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849

新ディレクター体制のお知らせ

KYOTO EXPERIMENT は、2025 年度より新たなディレクター体制となることをお知らせします。KYOTO EXPERIMENT のプログラム・ディレクター任期は、1 期を5年間とし、以降最大 10 年まで延長が可能です。2020～2024 年度までの5年間は、川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナツによる3名のコレクティブ体制をとってきました。この度、ナツは1期5年間の任期を終えて退任し、2025 年度からは川崎と塚原が共同アーティストック・ディレクターとしてプログラミングを行う体制になります。これまでに構築してきた、国内でも類を見ない先駆的な舞台芸術祭としての特徴を活かし、今後も本芸術祭の発展に努めてまいります。

KYOTO EXPERIMENT 2025 の全プログラム発表は7月下旬を予定しています。
これからの KYOTO EXPERIMENT にどうぞご期待ください！



©Wichaya Artamat

会期☞ 2025 年 10 月 4 日（土）～10 月 26 日（日）[23 日間]

会場☞ ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO ほか

主催☞ 京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）]、一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

リリースに関するお問合せ先☞ KYOTO EXPERIMENT 事務局（担当：前田、江口、加藤、豊山）

☎604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル6F Tel: 075-213-5839 Fax: 075-213-5849 Mail: pr@kyoto-ex.jp

共同ディレクターチームとして、KYOTO EXPERIMENT のような、国際的で現代的表現を扱う舞台芸術のフェスティバルがこの時代に開催されることの意義を問い続けてきたこの5年間、そして、体制の変化と共に、これから6年目に入ろうとしています。閉鎖的でナショナリスティックな傾向が強まっていく世界において、舞台芸術を通じた国際交流を途切れさせず継続すること、二項対立的かつ単純でわかりやすい価値観がものごとを規定しがちななかで、複眼的な視点を持つ現代の舞台芸術表現を通して、複雑性や流動性を提案していくこと、これらの表現を、単純化せずに複雑なまま観客に提示することで生まれるであろう対話… KYOTO EXPERIMENT は、実験的な遊びと共にこのようなことを思考できる場であることを目指してきました。そのなかで発見したことは、このフェスティバルがさまざまな失敗、生成の過程、結論の出ない議論を内包するプラットフォームとしても機能してきたということです。これらの失敗や生成、議論が、何かと何かのあいだにあるもの、違和感や不透明なものとの出会いを生み出し、いまを生きる手がかり、そしてこれからの想像することにつながっているのではないのでしょうか。

2025年のKYOTO EXPERIMENTでは、これまでの継続性のなかから、違和感や不確定性にこそ魅力を見出していくようなプログラムを準備しています。ぜひ、7月のプログラム発表まで楽しみにお待ちいただければ幸いです。また、このフェスティバルを次へとつなげていくための、次代のクリエイター育成事業を開始しています。今後のKYOTO EXPERIMENTの展開にも、どうぞご注目ください。

KYOTO EXPERIMENT 共同アーティスティック・ディレクター
川崎陽子 塚原悠也

KYOTO EXPERIMENTの共同ディレクターを2020年から2024年まで、川崎陽子さんと塚原悠也さんとともに、務めさせていただいたことは大変光栄でした。10年間の歴史を持ったKYOTO EXPERIMENTを引き継いだ私たちは、その歴史を踏まえて、この5年間でフェスティバルをさらに先鋭的で、革新的、かつ境界線を押し広げる、実験的な表現の場に近づけることができたのではないかと考えています。

私たちは(そしてフェスティバルは今も)多くの課題に直面しました。その中には、新型コロナウイルス感染症拡大の余波、京都市の行財政改革の影響、円安などがあり、フェスティバルの財政は苦しい状況が続いています。今の経済・政治環境の中で実験的な舞台芸術祭を作ることは非常にチャレンジングなことであり、フェスティバルを作り上げる一人一人のサポートなしには不可能なことです。みなさんとともに問いかけ、また考えた様々な質問、創造した作品、空間、体験、そして実現した交流や出会いをととても誇りに思っています。

退任することは寂しいですが、自分自身の新たな章が始まるのを楽しみにしています。また、関わるスタッフのみなさんにこのフェスティバルを託せることを嬉しく思っています。この5年間は、私にとって本当に豊かな経験であり、KYOTO EXPERIMENT、そしてアーティスト、観客、スタッフの皆様から、多くのことを学ばせていただきました。フェスティバルの実現に貢献して下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

前 KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター
ジュリエット・礼子・ナツプ

「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした 次代のクリエイター育成」事業のお知らせ

プログラムディレクター後進育成、および本芸術祭のこれまでの創作における蓄積を海外に向けて発信していく機会拡大の観点から、2024年度よりスタートした「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成」事業のお知らせをいたします。

本事業は、独立行政法人日本芸術文化振興会に設立された文化芸術活動基盤強化基金の助成を受けて実施し、下記の5つの活動で展開します。

- ①次代のディレクター育成「Echoes Now」
- ②海外公演を通じたアーティスト育成「Echoes Around」
- ③批評プロジェクト
- ④プロデューサー、テクニカルディレクター育成
- ⑤海外キュレーター招聘

①次代のディレクター育成「Echoes Now」

「Echoes Now」は、KYOTO EXPERIMENT が期待する次代のキュレーターとアーティストをショーケース形式で紹介するパフォーマンス・プログラムで、活動分野において異なる背景を持つキュレーター3名を、このショーケース公演の実践を通してプログラムディレクターとして育成していきます。加えて、国内外のネットワーキング活動を通して幅広い視野と知見を身につけることで、国際的に活躍できる人材を育成することを目指します。

対象キュレーターは川口万喜、堤拓也、和田ながらの3名。和田は、2025年からアシスタント・ディレクターとしてディレクターチームにも参画します。



川口万喜

成安造形大学芸術計画クラスを自主退学後、4年間農業に従事。2009年より大阪・中之島にあるコミュニティスペース「アートエリア B1」の事務局スタッフとして、国内アーティストの展覧会、音楽ライブ、パフォーマンス公演などに携わる。2013年、同施設の事務局を法人化し、理事兼事務局長を2023年まで務める。同年2月より京都市京セラ美術館 事業企画推進室に広報担当として勤務。個人での活動として、多分野にわたるアーティストとの協働、展覧会の企画運営等を行う。



©Kai Maetani

堤拓也

1987年生まれ、関西拠点。キュレーター、グラフィックデザイナー。2019年アダム・ミツキエヴィチ大学大学院カルチュラル・スタディーズ専攻修了。展示空間の構成だけに限らず、パフォーマンスを含む1回的な体験機会を生み出す一方で、アジアを中心とした非制度的な実践に関心がある。

これまでの主なディレクション／キュレーション実績に、シェアミーティング 2「つぎつぎに（あつまっては）なりゆくいきほひ」（滋賀、2025）、MEET YOUR ART FESTIVAL 2024「SSS: Super Spectrum Specification」（東京）、山下拓也個展「闇が抱える光：熊、ムンク、チーズバーガー、他」（台北、2023）、国際芸術祭「あいち 2022」（愛知）など。共同スタジオ・山中 suplex 共同プログラムディレクター。ICA 京都プログラム・ディレクター／京都芸術大学准教授。



©Yuki Moriya

和田ながら

京都造形芸術大学芸術学部映像・舞台芸術学科卒業、同大学大学院芸術研究科修士課程修了。2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。演技という行為に強い関心を持ち、テキストやモチーフを接写するように読み解いていくことで、作品ごとに固有の演技の文法の構築をめざしている。美術、写真、建築、音楽、彫刻、ダンスなど、異なる領域のアーティストとも演劇を媒介に対話し、協働作業による作品制作に積極的に取り組む。2018年より多角的アートスペース・UrBANGUILD ブッキングスタッフとして俳優にフォーカスしたパフォーマンスシリーズ「3CASTS」を企画。2020年よりNPO法人京都舞台芸術協会理事長。2025年度セゾン文化財団セゾン・フェローI。

②海外公演を通じたアーティスト育成「Echoes Around」

KYOTO EXPERIMENT では、これまで実験的な活動を行うアーティストの新作創作と上演に積極的に取り組んできました。その実績を活かし、KYOTO EXPERIMENT で制作した作品の海外での上演を通してアーティストの育成を行う「Echoes Around」をスタートします。「Echoes Around」対象アーティストは、荒木優光、チーム・チープロ、中間アヤカ、村川拓也の4組および「Echoes Now」にて紹介されるアーティストです。

荒木優光

アーティスト、音楽家、サウンドデザイナー。音楽を活動の主体としながらもその周縁に立つことを起点として、聴くことの創造性をユーモラスに追求し、再度音楽と結びつけることで文脈や効用の再考を促す。独自の解釈とプロセスによって音場空間を構築し、シアターピースやインスタレーション、パフォーマンス、ツアー、音源など多岐にわたる形態で発表する。近年の上演作品に、一般のワークショップ参加者とのパフォーマンス『空き地のTT』（2024）、カスタムオーディオカーによる野外コンサート作品『サウンドトラックフォードナイト屯』（2021）など。音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動している。



チーム・チープロ

松本奈々子と西本健吾によるパフォーマンス・ユニット。身体と身振りの批評性をテーマに活動を続けてきた。近年は、具体的な場所や時間から一つのステップを見出し、そのステップが喚起する複数のコンテキストとパフォーマンスの身体感覚や記憶の交差をあつかうダンス作品を制作している。主な作品に、『皇居ランニングマン』（2019-2020）、『京都イマジナリー・ワルツ』（2021）、『女人四股ダンス』（2022）、『nanako by nanako』（2024）など。



中間アヤカ

ダンサー。1992年別府生まれ、神戸在住。これまでに黒沢美香、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演。近年は自身の作品創作に積極的に取り組んでおり、「ダンスとしか呼ぶことのできない現象」を追い求め、それが現れる瞬間を他者と共有するための仕掛けを創り出すことに挑戦している。これまでの作品に、庭で他者の記憶を踊る4時間のソロダンス『フリーウェイ・ダンス』、空き地に建てた仮設劇場を運営し解体までを見届ける『踊場伝説』などがある。2018-2020年度 DANCE BOX アソシエイト・アーティスト。2022年度よりセゾン文化財団セゾン・フェロー。第16回神戸長田文化奨励賞受賞。



©Bea Borgers

村川拓也

演出家・映像作家。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表している。虚構と現実の境界に生まれる村川の作品は、表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。主な作品に、『ツァイトゲーバー』（2011）、『ムーンライト』（2018）、『Pamilya（パミリヤ）』（2020）、『事件』（2021）、『仕事と働くことを演じる』シリーズ（2022～）など。2016年に東アジア文化交流使（文化庁）として中国・上海／北京に滞在。2022年に第21回AAF戯曲賞にて、『事件』が特別賞を受賞。京都芸術大学映画学科、東京造形大学映画・映像専攻領域非常勤講師。



©Guoqing Jiang

*「Echoes Now」で紹介するアーティストは全プログラム発表時にお知らせします。

③批評プロジェクト

実験的舞台芸術の批評・評論を学ぶプロジェクト「批評プロジェクト」による評論家育成を実施します。実験的・現代的舞台芸術表現についての言説を創出していくことを通して、KYOTO EXPERIMENT の国際的発信力をより高めていくと共に、今後の関西地域および日本における舞台芸術シーンの活性化へとつなげていきます。

④プロデューサー、テクニカルディレクター育成

「Echoes Now」および「Echoes Around」アーティストの海外公演の制作・テクニカル業務の実践を通して、国際的に活躍できるプロデューサー及びテクニカルディレクターの育成を行います。

⑤海外キュレーター招聘

海外の劇場・芸術祭等のキュレーターが KYOTO EXPERIMENT 会期中に来日し、フェスティバルのプログラムを体験する招聘事業。招聘キュレーターにはフェスティバルの上演プログラムの鑑賞や、アーティストによるプレゼンテーションミーティングなど、複合的なプログラムで京都・関西の舞台芸術シーンについて見識を深めてもらい、育成対象のキュレーターやアーティスト、プロデューサー、舞台スタッフとさまざまな出会いと関係性をつくることで、海外展開につなげることを目指します。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）]、
一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

助成：文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会

<https://kibankikin.jp/>

